

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は 教職員96%(R4は92%・・・同等の質問項目の平均) 生徒 89%(R4は、82%・・・同等の質問項目) 保護者75%(R4は86%・・・同等の質問項目の平均) 地域 65%(R4は95%・・・同等の質問項目の平均)となった。 学校教育目標は「学校だより」に常に掲載されているが、保護者や地域の認知に向けては、更に工夫していく必要がある。</p>
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員や生徒の努力、特に学校教育目標に関連付けて努力している事実についての広報活動を充実させる。 ・行事や学校公開などのタイミングを活用し、保護者や地域への幅広い周知を促進する。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・「理解」が言葉として知っているということ、内容をよく分かっているというのでは解釈が異なり、回答も違ってくる。 ・学校教育目標、教育方針について各学期ごとに振り返りを実施するなど、更に工夫していく必要がある。生徒も年度の途中で振り返れると、「あまりそう思わない」という子が減ると思う。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。		

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員87%、生徒92%、保護者79%、地域55%(R4は同等の質問項目なし)となった。特に地域にとっては学校生活、学級生活について知る機会がほとんどない。また、ほとんどの生徒が肯定的評価である中で、そう思えない生徒がいる事実についても重く受け止めていく必要がある。</p>
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒観察、教職員間での情報交換及びhyper-QUなどの検査結果も活用し、よりきめ細かな生徒理解、学級経営を行う。 ・学校生活の様子を学校ホームページなども活用し、家庭や地域により具体的に伝えていく。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での生活が楽しいと感じている生徒が多いことはとても良いと思う。 ・生徒以上に先生方の学級経営の頑張りが見える気がしました。これからも細やかに生徒に対し取り組んでいていただきたい。 ・地域の人には、この内容について答えられるだけの情報が少ない。ホームページを見ても理解するのは難しいと思われる。
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員100%、生徒93%、保護者82%、地域 60% (R4は同等の質問項目なし)となった。特に地域にとっては学校生活、学級生活について知れる機会がほとんどない。各教科で学び合い学習を取り入れ、生徒は他者と関わり合いながら学習することが自然にできるようになっているが、深い学びにつなげたり、もっと人の意見を聞きたいと生徒が思える内容にしていくための工夫が必要である。</p>
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、学び合いの中でもジグソー法を取り入れた学習を職員研修で行なった。各教科で工夫して取り組んでいるので、来年度も研修等を利用して互いの授業を参考にして更に改善させていく。 ・生徒が学び合い、深め合っている様子についてもっと伝えるように学校だよりや学校ホームページ等を通じて紹介していく。
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観時に先生方の工夫やPC活用の様子は伺える。また、「知識の詰め込み」型授業から、自分の受け止め、意見を持つことに主眼が移っているように感じる。 ・生徒も概ねいろいろな考えにふれながら勉強できている。引き続き創意工夫の授業を行ってほしい。 ・先生方は100%を出しているが、生徒の結果を見ると、発表を苦手としている生徒もとりにこぼさずできているのか疑問。
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員100%、生徒92%、保護者84%、地域 60% (R4は同等の質問項目なし)となった。特に地域にとっては学校生活、学級生活について知れる機会がほとんどない。各教科で学習用端末を有効活用し、興味関心をひいたり、学習者にとってわかりやすい授業になるように工夫している。また、西中学力テストなど、手軽に取り組み、結果分析をしやすい活動にも利用できた。</p>
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。		<p>課題解決への方策</p> <p>学習用端末や大型モニター等のICT機器の活用については、今後も幅を広げていける可能性がある。個々に及び教職員がお互いに情報共有しながら試行錯誤を重ねていく。目的はICT機器の利活用ではなく、生徒の積極的な授業参加であることを忘れず、常に生徒目線で授業展開できる工夫をしていく。</p>
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・授業で学習用端末を有効活用している。更に工夫していく必要がある。 ・生徒、保護者には「あまりそう思わない」という回答があるが、ICT機器に対し苦手としている生徒や保護者に対する対策はどのようなものがあるのだろうか。地域や保護者の力を借りて研修をしてはどうか。</p>
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員85%、生徒87%、保護者84%、地域 60% (R4は同等の質問項目なし)となった。体育祭や校庭で展開される体育や部活動以外では、地域の方が活動について知る機会はほとんどない。体育の授業を中心として、生徒はよく努力し、体力の向上を図ることができた。体育祭では、クラスごとに団結し、協力して活動ができたのみならず、学年を超えてお互いに応援し合いながら競技し、体力も高めることができた。</p>
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>体育委員会など、生徒たちからの積極的な働きかけについても更に活発化させられるよう、指導助言を行っていく。</p>
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業を見る機会はほとんどないが、体育祭では、生徒の活発な活動を大いに感じる。西中記録も伸びているようです。 ・身体を動かすこと、体育の嫌いな生徒も楽しめるゲーム的な体力の付け方も取り入れてみてはどうだろうか。 ・人数が減少する中での部活動の強化がより必要だと思う。地域人材の活用も進められると良い。 ・前回体育の授業を見たが、教師1名で全学年を見ていたようだ。イレギュラーなケースとは思うが、教師のやりくりができるような体制が欲しい。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導 ①	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員95%、生徒78%、保護者73%、地域45%(R4は同等の質問項目なし)となった。特に地域にとっては学校生活、学級生活について知る機会がほとんどない。また、問題意識に関しては個人間の温度差もあり、生徒・保護者の中でも評価できない・わからないとの回答も多かった。</p>
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>今後も引き続き教職員は、アンテナ高く生徒の様子を気にかけて、生徒理解に努め、家庭とも連携しながら対応していく。学校の様子が更に良く保護者・地域に伝わるような情報発信及び学校公開を行う。</p>
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめやトラブルなどの問題に対して更に継続して途切れない対応が必要である。 ・先生は組織的に家庭と連携、協力しながら対応していると思っているが、生徒や保護者の2~3割はそう思っていないので、生徒の中には、まだまだ先生に相談できない子がいると考えられる。その子たちをいかに見つけるかが課題。 ・生徒、保護者が一人で抱え込まないようにしたい。ライン相談や外部の相談窓口へ対応できていれば、問題は少ないと思うがどうだろうか。 ・地域には、生徒指導上の課題が何であるかわかりにくい。
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員100%、生徒93%、保護者71%、地域45%(R4は同等の質問項目なし)となった。特に地域にとっては学校生活、学級生活について知る機会がほとんどない。教職員は生徒一人一人の理解によく努めている。保護者は、生徒自身の頑張りをよく認める中で、教職員の更なる支援に期待を寄せている。</p>
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>今後も引き続き教職員は、個人としても組織的にもアンテナ高く生徒の様子を気にかけて、生徒理解に努め、家庭とも連携しながら対応していく。学校の様子、特に生徒の活躍が更に良く保護者・地域に伝わるような情報発信及び学校公開を行う。</p>
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の2割、生徒の5%くらいがまだまだと感じているようだ。先生方にはこれからも工夫しながら生徒との関りを持って行って欲しい。 ・専門家である先生を信頼して任せたい。 ・(他の項目でも同様であるが)判断するに足る情報がない。来年度の学校運営協議会では、これらの学校評価項目に照らし合わせて教育活動に関する説明をしていく必要がある。また、生徒の生の声を聞く機会も設けて欲しい。
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員95%、生徒81%、保護者68%、地域50%(R4は同等の質問項目なし)となった。特に地域にとっては学校生活、学級生活について知る機会がほとんどない。ユニバーサルデザインの工夫やICT機器の有効活用、学び合いなど活用しながら、一人一人の特性に応じた指導方法を積極的に取り入れている。</p>
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>今後も教職員個人個人授業実践における工夫に加え、校内研修等で教職員も学び合いながら、生徒一人一人の特性やニーズに適應できる授業展開や道具の工夫を重ねていく。</p>
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観で実際に授業風景を見学し、個に応じた指導方法を積極的に取り入れていることに感動しました。 ・多様性の時代であり、学校・先生と協力していきたい。 ・先生は非常に努力していると思われる。ただ、先生に相談できない生徒の割合が約20%となっている。相談しやすい環境や関係を更に築いていく必要がある。 ・1人1人の特性を100%理解することは不可能と知っているが、先生方の常識を時に取っ払うと見えてくるものもあるかと思う。生徒や保護者に聞くのもヒントになるかと思う。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は教職員100%、保護者67%、地域65%(R4は同等の質問項目なし)となった。校舎内外の環境整備など、教職員の手が回らないところを細かく助けていただいたことに対して、教職員から感謝の声が高まっている。PTAや学校応援団の学校に対する理解や協力は大きいですが、保護者地域との連携は更に強力にしていける必要がある。</p>
	生徒			<p>課題解決への方策</p> <p>今後も学校の活動を地域に広く知らせたり、協力を求めたりする。防災訓練など、地域と学校(中学生)が協力して行えるような活動について、学校運営協議会と協働で計画していく。</p>
	保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災関係を学校と共に考えていきたい。 ・先生方から聞くと細かく個々の生徒に対応されていることが理解できるが、聞く機会のない地域の人には分からないと思われる。 ・地域交流フェスティバルでは、地域団体(支え合い・健全・PTAなど)と協力しあい、地域とともにある学校づくりに努めていると思われる。 ・生徒への質問がアンケートからはずれているのが疑問。自分たちの学校の事なのだから、中学生なら一緒に考える力があるはず。 ・自分の経験が生かせるなら、先生と共に協力していきたい。 ・夏休み中に何人かの方から「学校が草だらけだけれど、西中学校はなくなったのか」と、電話があった。西中を見守る地域の目の多さに感動した。保護者と地域で協力して、早朝除草等できたら良い。
	地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		

鶴ヶ島市立西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table border="1"> <caption>評価結果の割合</caption> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>25%</td></tr> <tr><td>②</td><td>50%</td></tr> <tr><td>③</td><td>19%</td></tr> <tr><td>④</td><td>6%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	25%	②	50%	③	19%	④	6%	⑤	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員による肯定的評価(①+②)の割合は75% (R4は同等の質問項目において50%)となった。ICT機器や校務支援システムの活用が軌道に乗ってきたこともあり、時間外勤務についても減少傾向にある。勤務時間終了後や休日の勉強会への参加希望が叶えやすいような状況を更につくっていく必要がある。</p>
	評価項目	割合														
	①	25%														
	②	50%														
③	19%															
④	6%															
⑤	0%															
生徒			<p>課題解決への方策</p> <p>部活動のための時間外勤務、休日出勤など、なかなか減らすことができない負担については、学校外の協力が得られるよう学校運営協議会等を通して働きかけていく。</p>													
保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の外部委託を早急に進める必要がある。 ・教員の長時間労働の問題は、マスコミから知ることができないのが現状。地域として協働して教員の負荷軽減に尽力できる仕組みを作るべき。みんなで考えたい。 ・学校へ協力できること(草刈り、花の苗植え等の環境整備他)を地域へアピールすることも必要。知らないから協力できていないだけかもしれない。 													
地域																